

# 駿府城独案内



## 駿府城跡

徳川家康公は慶長12年(1607)大御所として駿府に入り、それまでの駿府城を一回り大きくした城を全国の大名に命じて(天下普請)築城しました。  
 駿府城の構造は、三重の堀が廻り、堀に囲まれた曲輪を内側から「本丸」、「二ノ丸」、「三ノ丸」とする典型的な輪郭式の縄張りとなっています。現在三ノ丸はおもに公共施設が建ち並び、本丸、二ノ丸は駿府城公園となっています。  
 みなさんも家康公の駿府城を探検してみましょう。

## 駿府城略年表

- 天文18年(1549) 徳川家康、今川氏の人質として駿府で生活。(永禄3年(1560)まで)
- 天正13年(1585) 徳川家康、駿府城の築城開始。
- 天正14年(1586) 徳川家康、駿府に入る。
- 天正17年(1589) 天守をはじめとする二ノ丸までの駿府城完成。
- 慶長5年(1600) 関ヶ原の戦いで徳川方勝利。
- 慶長8年(1603) 徳川家康、征夷大将軍に任命され江戸幕府を開く。
- 慶長11年(1606) この頃より、駿府の町の町割や安倍川の治水工事を始める。家康は新しい城の建設を川辺町付近に計画するが、従来の城を南・東・北に拡張することに変更。
- 慶長12年(1607) 2月駿府城本丸、二ノ丸の修築を始める。7月徳川家康、駿府に移り住む。本丸は完成するが12月に火災、御殿をはじめ天守など本丸の全てを焼失。直ちに再建にかかる。
- 慶長13年(1608) 本丸御殿等完成。
- 慶長15年(1610) 天守完成。
- 元和2年(1616) 徳川家康死去(75才)。久能山東照宮に埋葬される。
- 寛永12年(1635) 城下より出火、城内に延焼し天守・御殿・櫓・塀等大半を焼失。
- 寛永15年(1638) 御殿・櫓・城門等が再建されるが、天守は再建されず。
- 宝永4年(1707) 宝永地震により駿府城の石垣や建物の3分の1が倒壊。
- 宝永5年(1708) 駿府城の修築工事を行う。
- 安政元年(1854) 安政地震により駿府城内外の建物、石垣などほぼ全壊する。
- 安政4年(1857) 修復工事に着手し、安政5年完了する。
- 明治2年(1869) 「駿河府中」を「静岡」と改称。
- 明治3年(1870) 二ノ丸冠木門払い下げ。以降明治9年までに大手門以下各城門が払い下げられ、取り壊される。
- 明治24年(1891) 静岡市、三ノ丸を除く大部分の払い下げを受ける。
- 明治29年(1896) 静岡市、駿府城跡を陸軍省に献納。
- 昭和24年(1949) 静岡市、駿府城跡の払い下げを受ける。
- 昭和26年(1951) 「駿府公園」と名称が決まる。
- 平成元年(1989) 復元巽櫓完成。
- 平成8年(1996) 復元二ノ丸東御門完成。
- 平成24年(2012) 「駿府公園」から「駿府城公園」に名称変更。
- 平成26年(2014) 復元坤櫓完成。

## アクセス・料金・施設休館日

- アクセス** 【徒歩】JR静岡駅から約15分  
 静鉄新静岡駅から約12分
- 施設料金** 【東御門・巽櫓】 大人200円・小人50円  
 【紅葉山庭園】 大人150円・小人50円  
 【坤櫓】 大人100円・小人50円(今昔スコープ体験料500円)  
 【全施設共通】 大人360円・小人120円
- 施設休館日** 月曜(祝日の場合、振替無しで営業)  
 年末年始(12/29~1/3)

■ 江戸時代の施設名称 ● 説明看板あり ● 説明看板なし ⓘ 駿府城の詳しい説明看板あり



**1** **2** **大手御門跡**  
駿府城内へ入る正面出入口です。三ノ丸堀を土橋で渡って、右手へ直角に曲がり渡橋門から城内へ入る構造になっていました。

**3** **四足御門跡**  
駿府城南辺、西寄りの箇所設けられた出入口で、東側の大手御門と並び、東海道筋から城へ入る重要な出入口の一つです。

**4** **横内御門跡**  
駿府城内へ入る北東側の出入口です。内側には周辺で発見された「松平伊豆守信輝」と刻まれた石があります。

**5** **草深御門跡**  
駿府城へ入る裏手(搦手)側の門で、絵図には「不明」と記されるものもあり、普段はあまり使用されていないと考えられます。

**6** **城代屋敷跡**  
寛永10年(一六三三)以降、駿府城を管理する専任の城代が置かれるようになり、このあたりに城代屋敷が建てられました。

**7** **在番・勤番組頭屋敷跡**  
駿府城内の警固にあたっていた在番・勤番の組頭の屋敷跡がありました。

**8** **9** **二ノ丸御門跡**

二ノ丸へ入る正面出入口で、二ノ丸大手門とも呼ばれました。門は昭和32年に取り壊され、約70m東側に新たに出入口が設けられました。(現在の駿府城公園入口)

**10** **東御門・巽櫓**

東御門は平成8年に復元されました。中には二ノ丸堀から出土した青銅製シャチ(市指定文化財)が展示されています。巽櫓は二ノ丸南東の隅櫓で、二重三階、平面短折(L型平面形)構造で、平成元年に復元されました。

**11** **清水御門跡**

二ノ丸へ入る西側の出入口です。二ノ丸堀を木橋で渡って高麗門を通り、石垣で囲まれた櫓形内を経て、渡橋門から二ノ丸へ入る構造になっていました。石垣上の多聞櫓は二階建てで、西側の守りを固めていました。

**12** **13** **北御門・馬場先御門跡**

北御門は門を入ると石垣による櫓形風の空間を通り、二ノ丸内部へと至ります。二ノ丸へ入るとすぐ西側には、石垣造りの喰い違い土手構造による馬場先御門跡がありました。

**14** **坤櫓**

二ノ丸南西にある隅櫓です。二重三階で七間四方の大きな櫓です。発掘調査で、二ノ丸側にも石垣が確認されました。平成26年に復元されました。

**15** **東喰違御門跡**

御玄関前御門に南面する二ノ丸の区域は、敵が容易に進入できないよう、橋を挟んで東側と西側が石垣造りの土手で区画されていました。ここに残る土手は東側を区画する土手の一部で、北から延びる土手との間に門を設けていました。

**16** **二ノ丸御殿・台所跡**

現在庭園となっている部分は、中仕切り(石垣造りの土手)を挟んで北側に二ノ丸御殿が、南側に台所の建物があったことが発掘調査によって確認されました。この建物跡は、家康在城時の建物と考えられます。



**17** **二ノ丸水路**  
本丸堀と二ノ丸堀をつなぐ水路です。底にも石が敷いてあるたいへん珍しい構造です。本丸堀の水位を保つ役目も果たしています。

**18** **米蔵跡**

この場所には、駿府城の食糧庫である米蔵が一番米蔵から十一番米蔵まで建ち並んでいました。発掘調査でもその位置が確認されています。

**19** **本丸堀**

本丸堀は駿府城の三重堀の最も内側の堀です。明治29年に埋められてしまいましたが、発掘調査により南東部分と水路付近が確認され、その姿を現しています。

**20** **御玄関前御門跡**

御玄関前御門は本丸御殿へ至るための最も重要な門で、本丸の正面玄関ともいえます。木橋を渡って高麗門を通り櫓形内を東に折れて本丸に入る構造です。

**21** **御台所御門跡**

本丸へ入る東側の門で、本丸堀を渡り、高麗門を通り、南へ折れる構造です。現在は見る事ができませんが、発掘調査によって位置が確認されました。

**22** **天守・天守台跡**

大御所徳川家康の居城にふさわしく、駿府城の本丸には五重(または六重)七階の壮麗な天守が築かれました。駿府城下からも、富士山と並び立って見えたと言われています。

**23** **本丸御殿跡**

駿府城の中でも最も重要な建物です。家康が諸国の大名に会うような公式の場所と、日常の生活をしている私的な場所を併せ持った建物で、本丸の中央部分に位置しています。

**24** **家康手植のミカン**

このミカンは、鎌倉時代に中国から渡来したコミカンの一種で、香りが強く種のある小形の実を結びます。家康在城時に紀州より贈られ、自ら天守台付近に移植したと伝えられています。静岡地方のミカンの起源を知るうえで貴重なもので、県指定天然記念物となっています。



**25** **26** **石垣刻印**

駿府城には、天下普請を示すような石垣刻印が数多く見られますが、特にこの場所に多く残っています。いくつ探せるかな?

**27** **28** **29** **加番屋敷跡**

寛永9年(一六三二)頃設置された加番の屋敷跡です。加番は城外の警備を行いました。三加番の設置は、由比正雪の乱後の慶安4年(一六五二)です。現在はいずれも稲荷神社となっています。

**30** **駿府町奉行所跡**

家康が大御所として駿府に入ってから以降、大手御門前に大手組、横内御門前に横内組が置かれる二人の体制でした。これ以前の状況は、ごく断片的にしかられていません。元禄15年(一七〇二)以降、大手組のみとなりました。



**31** **札ノ辻**

七間町通りと呉服町通りの交差する十字路につくられた高札場です。法令や禁制等の必要なことを板に書き掲示しました。

**32** **西郷山岡会見の地**

慶応4年(一八六八)松崎源平衛の屋敷で、西郷隆盛と山岡鉄太郎(鉄舟)が徳川方の処分について話し合いました。静岡市指定史跡となっています。

